

公募

学会誌第 47 巻第 2 号「GOSAT シリーズの成果（仮）特集号」への原稿募集

日本リモートセンシング学会編集委員会

委員長 武田知己（宇宙システム開発利用推進機）

毎年のように更新される全球平均気温の最高値や海氷面積の最低値に代表されるように、近年気候変動の影響が特に目にみえるようになってきています。またその主要な原因の 1 つである大気中の温室効果ガスの濃度もハワイ島における観測結果によると過去数十年間上昇を続けています。このような状況において国連気候変動枠組条約やパリ協定、グローバルストックテイクなどの気候変動の緩和や適応を目指した国際的な取組みが進められていますが、その実施については温室効果ガスの濃度分布や吸収排出量の実態把握に関する信頼できる長期データが不可欠です。

GOSAT シリーズは環境省、宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所の共同プロジェクトで、温室効果ガス観測に特化した世界初の衛星である GOSAT（温室効果ガス観測技術衛星、2009 年打上げ）、その後継機である GOSAT-2（温室効果ガス観測技術衛星 2 号、2018 年打上げ）、温室効果ガスの面観測を実現した GOSAT-GW（温室効果ガス・水循環観測技術衛星、2025 年打上げ）の 3 衛星を用いて主要な温室効果ガスである二酸化炭素やメタンなどの全球観測を行っています。

特に GOSAT、GOSAT-2 は近赤外域から熱赤外域にかけての幅広い波長範囲で高波長分解能を有するフーリエ変換分光計による全球観測を 17 年以上行っており、その長期観測データを生かした研究事例の蓄積も国内外で進んできました。このため、今後 GOSAT-GW の観測やさらにその後継機の検討が本格化することも念頭に GOSAT、GOSAT-2 の成果などを総括するため、日本リモートセンシング学会誌において「GOSAT シリーズの成果（仮）特集号」と題した特集号を企画することにしました。

本特集号では GOSAT シリーズの長期データを活用した研究や実利用事例、高精度のデータを長期間にわたってユーザに提供し続けるために行われてきた各種活動などについて、広く原稿を募集します。

- 1) 掲載予定号 第 47 巻第 2 号(2027 年 5 月刊行予定)
- 2) 原稿種別 論文、小論文、技術報告、総説（レビュー）、速報、解説、資料、事例紹介
- 3) 募集テーマ GOSAT シリーズの長期データを活用した研究や実利用事例、高精度のデータを長期間にわたってユーザに提供し続けるために行われてきた各種活動などに関する原稿を幅広く募集します。
- 4) 原稿の投稿期限 2026 年 9 月 15 日（論文、小論文、技術報告、総説）
2027 年 2 月 15 日（速報、解説、資料、事例紹介）
- 5) 査読審査 論文、小論文、技術報告、総説（レビュー）については通常通りの査読審査を行います。速報、解説、資料、事例紹介には査読がありませんが、編集委員会での校閲は行います。
- 6) 投稿規定等 以下のページをご参照下さい。
https://www.rssj.or.jp/publications/journal/jrssj_rules/
※原稿の筆頭著者は原則として本学会会員とし、筆頭著者が非学会員である場合にはページチャージを負担していただきます。カラーページについては学会員・非学会員を問わず実費を請求致します。
- 7) 留意事項 査読の進捗状況によっては、受理された原稿が第 47 巻第 2 号以降に掲載される場

合があります。

8) 本特集号に関する問い合わせ先

松永恒雄・両角友喜（国立研究開発法人国立環境研究所）

E-mail: matsunag@nies.go.jp、morozumi.tomoki@nies.go.jp